



自分を傷つけずには
いられない子どもへの対応

前回の『「こらば」で自傷行為についてふれました。自分を傷つけずにはいられない人は、孤独や孤立、自己否定や生きづらさなどつらい感情をもっていたり、「認めてもらいたいけど自分はいらぬ存在、助けてもらいたいけど助けを求めに値しない存在、幸せに楽しく過ごしたいけど幸せや楽になつてはいけぬ存在」という思いを抱えています。そういったつらい感情の記憶や恥の感情を「今の自分」から切り離すために、「今の自分」を守るために自傷行為を行ってしまうのです。そして、「自傷行為をやめたい、でもやめられない」という、相反する気持ちと大きな葛藤を抱えながら過ごしているのです。

このような話題にふれることは、決して耳障りのいい話ではありません。ですが、こういったことが起きてしまう様々な社会的背景に目を向けるきっかけになればいいと思うこと、同時に、もし「そうせざるをえない子ども」に出会った時に「つなされる大人」になれるよう「知る」ことになれば、私たち一人ひとりにもできることが増えるのではないかと思います。とはいえ、実際にそのようなことに直面したら、やはり真っ先にショックが表れてしまうことでしょう。気づいた大人の反応としては、「びつくりして頭ごなしに叱責する、不自然に非常に優しくする、戸惑って声をかけるタイミングを逸する」といったことが多くいと言われています。「そんなことしないでほしい」という気持ちであっても、子どもにとつてはいづれも不自然で強烈な反応であり、この大人の反応が子ども自身の「自分を」をさらに強めてしまうことになりま。また、子どもの孤独な対応スキル、つまり自傷行為を増長してしまつことにもなってしまうのです。

とつさの反応だとしても感情的に叱責や禁止など過剰に反応するのではなく、かといって「誰かの真似」とか「気を引きたいだけ」と早わかりして過小に反応するのでもなく、同じ目線で「教えて」というスタンスで関わっていくことが大切になってきます。「傷つけちゃダメ」や「切っちゃダメ」も守れない約束になつてしまふ可能性があるのでも、「切つてもつらいし、切らなくても尚つらい」という両方の気持ちがあることに共感し、自傷の際にどんなきつかけがあったか、どんな場面だったのか、などトリガーに気付いて苦しみの背景に気付いていくことが実際のサポートになります。自分を傷つけてしまふリスクを抱えながらも、どうにか生きていけるための安心安全の場所、そついったつながりを作っていくことが第一歩なのです。自傷行為はあつてほしくないことですが、子どもなりに困難に直面していて、何とかしようとして闘っていることを理解して「助けを求められる大人」になれるといいですね。

令和3年度 全国学力・学習状況調査の公表について

本調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育政策の改善や充実を図ることを目的として、国が実施する調査です。
昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けて中止となつたため、2年ぶりの実施となりました。
教育委員会・学校として、自治体や学校の学力水準を把握・検証し、学校全体の指導方法の改善につなげています。
調査は、国語、算数、数学について、小学校6年生と中学校3年生を対象に実施しました。

当町の小中学校
調査結果と課題

令和3年度調査における町の状況は次のとおりです。

調査実施日
令和3年5月27日

- 小学校
国語、算数ともに全国・県平均を上回る結果となりました。
- 中学校
国語は全国・県平均を上回りましたが、数学は全国・県平均をやや下回る結果となりました。

※詳しくは、町ホームページをご覧ください。

今後の取り組み

表面化した課題の解決に向けて、学校と家庭での生活の中で達成感、成就感を育むことを共有する教職員・保護者の関係が必要となりますので、ご協力をお願いいたします。

【問い合わせ先】
こども教育課 学校教育係
☎45-8672